

黙示録を読み解く3つのツボ

第一のツボ 何が書かれているか：1章19節にある

1. 黙示録のアウトライン・・1:19、主イエスがヨハネに書き記すように命じた内容
「あなたが見たこと、今あること、この後起ころうとしていることを書き記せ」
- (1) 序文 (1:1~8)
 (2) ヨハネの見た事 = 天におられる主イエス・キリストの姿と啓示 (1:9~20)
 (3) 今ある事 = 七つの教会に宛てた手紙 (2章~3章)
 (4) この後に起きる事 = 大患難期・メシアの王国・新しい天と新しい地 (4章~22:5)
 (5) 結語 (22:6~21)
2. **今ある事** = 当時実在した教会の状況 → 教会時代の七つの流れを預言したもの

	教会名	意味=特色	時代区分	時期
①	エペソ	好ましい	使徒時代 (第2世代)	30~100
②	スミルナ	没薬	ローマの迫害の時代	100~313
③	ペルガモ	結婚した	国家教会となった時代	313~600
④	テアテラ	継続した犠牲	分裂と暗黒の時代	600~1517
⑤	サルデス	逃れる者	宗教改革の時代	1517~1648
⑥	フィラデルフィア	兄弟愛	大宣教運動の時代	1648~1900
⑦	ラオデキア	人々が支配する	背教の時代	1900~現在

313年 コンスタンティヌス帝によるミラノの勅令、キリスト教の公認
 1517年 マルティン・ルター 95か条の論題を発表 → 宗教改革の始まり
 1648年 ウェストファリア和平条約 30年戦争の終結 → 宗教戦争の終わり

3. **この後に起きる事** = 大患難期から新天新地に至るまで

	区分	黙示録の箇所
①	大患難期の前に天で起きる事	4~5章
②	大患難期	6~9章
③		10~14章
④		15~16章
⑤		17~18章
⑥		19:1~19
⑦		大患難期終了後に起きる事 (王国の準備期間)
⑧	メシアの王国【千年間→千年王国】	20:6
⑨	メシアの王国の後の出来事	20:7~15
⑩	新しい天と新しい地【永遠の秩序】	21章~22:5

第二のツボ どのように書かれているか：ヘブル的な記事の書き方の特徴2つ

1. 特徴の第一
- 全体を流した**
- あとに、
- 重要な部分**
- を記す

	区分		黙示録の箇所	
①	大患難期の前に天で起きる事		4～5章	
②	大患難期	7年間の全体の流れ	前半期	6～9章
③			途中で起きる事	10～14章
④			後半期	15～16章
⑤			7年間の中で特に重要なことをクローズアップ	バビロンの二つの役割
⑥	メシアの再臨	19：1～19		
⑦	大患難期終了後に起きる事（王国の準備期間）		19：20～21 20：1～5	
⑧	メシアの王国【千年間→千年王国】		20：6	
⑨	メシアの王国の後の出来事		20：7～15	
⑩	新しい天と新しい地【永遠の秩序】		21章～22：5	

2. 特徴の第二
- 結末を先に見せた**
- あとに、
- それに至る経緯**
- を記す

- (1) 14章は、途中で起きる事の一つで、「天からの七つの宣言」。後半期に入る前に、**結末を先に見せる**。それに至る**経緯は、15章から20章**にて記される。
- ① 第一の宣言（1～5節）：**シオンの山の上の144,000人**
 - シオンの山に子羊＝メシアが立っている。これは、メシア再臨後の千年王国での情景である。よって、これは予告映像のようなもの。
 - 144,000人は、前半期において世界宣教に従事した。彼らが一人も欠けることなく、千年王国に無事入っていることを予告している。
 - ② 第二の宣言（6～7節）：永遠の福音
 - 144,000人による世界宣教は前半期で終了する。この間に、世界の人々は皆が福音を聞く。後半期に入るときに天使が中空から全世界の人類に念押しで福音を伝える。大患難期において福音を聞かなかった人は誰もいない。【参考 6：15～17、9：20～21】
 - ③ 第三の宣言（8節）：**バビロンの崩壊予告**
 - このあと、実際にバビロンは2回倒れる。中間において宗教的バビロンが倒れ（17章）、後半期末期に政治的バビロンが倒れる）
 - ④ 第四の宣言（9～11節）：獣を拝む者たちへの警告
 - 「**火と硫黄の池**」（20：10～15）の予告
 - ⑤ 第五の宣言：聖徒たちへの励まし（12～13）
 - ⑥ 第六の宣言（14～16節）：穀物（＝信者）の刈り取り
 - 後半期でも**救いを受ける人が大勢いる**
 - ⑦ 第七の宣言（17～20節）：神の激しい怒り
 - **ハルマゲドンの戦いの第7段階の予告**。熟したぶどうは、反キリストの軍勢。攻撃したペトラ（ボツラ）から再臨のメシアによって押し返されて、エルサレム郊外の谷まで敗走し、そこで壊滅する。その予告。
- (2) **結末**＝悪魔が火の池に投げ込まれる（20：10）、**経緯**＝20：11～15

第三のツボ 象徴的表現は、旧約聖書、特にダニエル書に照らして意味を知る

1. 獣
 - (1) ダニエル書では、「獣」は、世界的な覇権国家（バビロニア→ペルシア→ギリシア→第四の国）
 - (2) 第四の国は、ローマから現代に至っており、最終的には反キリストによる世界支配に至る。よって、黙示録では、「獣」は、まず第四の国を、次に反キリストを指す。
 - ① 黙 13：1、ここでは「獣」は第四の国。「海から上ってくる」というのは、ダニエル書での表現で、異邦人世界から登場するという意味。ここでは、反キリストはその七つの頭のうちの一つ（13：3）。
 - ② 反キリストが一度死んでよみがえり、世界の支配者となる（13：3～4）。その後は、「獣」は反キリストその人を指す（13：5～10）。
 - ③ 反キリストの名を数字で表すと「666」である（13：18）。
 - (3) 反キリストは、小国の出身であるが、世界を支配したときに、その首都をバビロンに置く（14：8、18章）。これにて、4つの覇権国家すべてが、首都をバビロンとしたことになる。
2. 海、大水、水・・・異邦人世界（13：1、17：1、15）
3. 押し流す大水・・・大軍（12：15）
4. 竜・・・悪魔、サタン（12：9）
5. 女
 - (1) 民族としてのイスラエル（12：1）
 - (2) 都市 バビロン（17：1、5、18章）
6. 十本の角・・・十人の王（17：12）
 - (1) 大患難期がスタートする時点では、国際社会は、10の地域に分割統治されている。
 - (2) 反キリストは、大患難期の中間において、10人の王に戦いを挑み、一度戦死する（ダニ 11：40～45）。しかし、よみがえって、3人の王を倒し（ダニ 7：24）、8番目の王となる。
 - 「いた（過去形）、いない（現在形）、来るであろう（未来形）」（17：8）
 - (3) 他の7人の王は反キリストに服し、世界の支配権を反キリストに委ねる（17：13）
7. 七つの頭・・・「この女が座している七つの山で、それは七人の王たちのこと」（17：9）
 - (1) 旧約聖書で「山」は国家を象徴する。
 - (2) 「七つの頭」は、第四の国が、歴史的に経る七つの統治体制を指す。
 - ① 王政
 - ② 貴族政（元老院と執政官）
 - ③ 護民官と独裁官
 - ④ 共和政
 - ⑤ 寡頭政
 - ⑥ 帝政・帝国主義
 - ⑦ 反キリストによる世界支配
 - (3) 黙 17：11 「五人はすでに倒れましたが、一人は今いて、もう一人はまだ来ていません。彼が来れば、しばらくとどまるはずです。」
 - (4) 第六段階のスタートは、初代皇帝アウグストゥス（ルカ 2：1）

黙 13：3 打たれて死んだと思われたが、その致命的な傷は治った。→【直訳】屠られて死に至ったのだが、その死の傷は癒された。（下線部は、5：6に同じ語、「死んでよみがえった」の意味）

確認問題 黙 17：11 「昔いたが今はいないあの獣は八番目の王ですが、七人のうちの一人でもあり、滅びることになります。」は、どういう意味でしょうか？

参考資料：この後に起きる事の一覧

大患難期前	① 神の御座 ② 小羊と1本の巻き物(封印7か所)	4章 5章
前半期(3年半)	① 七つの封印のさばき ② 14万4千人のユダヤ人と世界的リバイバル ③ 七つのラッパのさばき (第5のラッパは「第一の災い」、第6のラッパは「第二の災い」)	6章 7章 8章～9章
大患難期の中間で起きる事	① 小さな巻物 ② 大患難期の神殿 ③ 二人の証人(前半期に活動、死と復活) ④ 第七のラッパ ⑤ 後半期におけるイスラエル民族の避難 ⑥ 海から上ってくる獣(反キリスト) ⑦ 地から上ってくる獣(偽預言者) ⑧ 七つの宣言	10章 11:1～2 11:3～13 11:14～19 12章 13:1～10 13:11～18 14章
後半期(3年半)	① 鉢のさばきの前奏 ② 七つの鉢のさばき = 「最後の七つの災害」 (15:1) = 「第三の災い」(11:14) ● 第6の鉢: ハルマゲドンの戦い 第1段階 ● 第7の鉢: ハルマゲドンの戦い 第8段階	15章 16章 (16:12～16) (16:17～21)
バビロンの二つの役割	① 世界統一宗教の本山として(前半期) ② 反キリストによる世界支配の首都として(後半期)	17章 18章
再臨	① 再臨の前奏 ② 再臨後に反キリスト軍と戦うメシア	19:1～10 19:11～19
準備期間	① 反キリストと偽預言者の逮捕と処罰 ② サタンの束縛 ③ 大患難期における殉教者たちの復活	19:20～21 20:1～3 20:4～5
メシアの王国	① メシアによる統治【千年間】	20:6
王国の後	① 最後の反乱とその結末(②による) ② 大きな白い御座のさばき (最後の審判)	20:7～10 20:11～15
永遠の秩序	① 古い天地は過ぎ去り、新しい天地 ② 新しいエルサレム	21:1～8 21:9～22:5

ハルマゲドンの戦いについて

ハルマゲドンの戦いは、8つの段階をもって展開される。

黙示録は、その最初の第1段階と最終の第8段階を、16章12～21節で記す。

8つの段階は、旧約聖書により預言されている。その内容は、それぞれの預言が部分的であり、かつ時系列ではない。そこで、内容を整理して論理的な順序をつけると8段階になる。黙示録は最初と最後を明らかにしているのので、論理的順序をつける上で大変役にたつ。その8段階は、次ページの表。

段階	ハルマゲドンの戦いの展開	関連箇所
第1	反キリストの軍勢、ハルマゲドン（メギドの丘）があるイズレエル平野に集結 この集結を、神の目から見ると	黙 16 : 12~16 ヨエ 3 : 9~11、詩 2 : 1~6
第2	反キリストの首都バビロンが攻撃される バビロンは世界経済の中心地となっていた 攻撃するのは、異邦人信者たち	イザ 13 : 1~14 : 23 エレ 50~51 章 ゼカ 5 : 5~11 イザ 13 : 3
第3	反キリストは、バビロンを見捨て、当初の作戦どおり、エルサレムに進軍する。 イスラエル軍は激しく抵抗する。 激戦の末、エルサレムは陥落する。しかし、エルサレムにユダヤ人が残る	ゼカ 12 : 1~3 ゼカ 12 : 4~9 ミカ 4 : 11~5 : 1 ゼカ 14 : 1~2
第4	反キリストは、多くのユダヤ人が避難しているヨルダン川東側の山岳地帯の町ボツラに進軍する ユダヤ人たちは荒野で3年半、養われる その場所はボツラ 大患難期後半期のユダヤ人迫害と戦役により、ユダヤ人の全人口は3分の1に減少 反キリストの軍勢がボツラに迫り、ユダヤ人は危機	エレ 49 : 13~14 黙 12 : 6、14 イザ 41 : 8~20 ミカ 2 : 12 ゼカ 13 : 8~9a マタ 24 : 28
第5	ボツラにいた指導者たちの呼びかけで、イスラエル民族全体がイエスをメシアとして認め、メシアを拒否してきた民族的な罪を悔い改める。そして、メシアに帰って来てくださいと祈る。呼びかけから2日間。3日目に、イスラエル民族全員が霊的救いを受ける。偽預言者たちが処刑される。	ホセ 6 : 1~3 イザ 53 : 1~9 イザ 64 : 1~12、詩 79・80 ゼカ 12 : 10~13 : 1 ヨエ 2 : 28~32 ゼカ 13 : 2~6
第6	メシアがボツラに地上再臨する。 メシアはひとりで反キリストの軍勢とボツラで戦う。 再臨するときのシャカイナ・グローリーケルブに乗る 万軍（天使たち）を伴う・教会の聖徒たちを伴う 反キリスト軍との戦いでメシアの衣は血に染まる イスラエル民族は神の民とされたことを知る	イザ 34 : 1~7、63 : 1 イザ 63 : 2~6、ハバ 3 : 3 ミカ 2 : 12~13 マタ 24 : 30、使 1 : 9~11 詩 8 : 8~16 マタ 16 : 27、ユダ 14~15 黙 19 : 17~19、13 エゼ 39 : 17~29
第7	ボツラからエルサレムの郊外、ヨシャパテの谷までの戦い。 反キリストはメシアによって殺される。 その靈魂はハデスに、死体は葬られずに放置される。 エルサレム近郊で反キリストの軍勢は壊滅する。	ヨエ 3 : 12~13 ハバ 3 : 13b、Ⅱテサ 2 : 8 イザ 14 : 3~11、16~21 ゼカ 14 : 12~15、黙 14 : 19~20、エレ 49 : 20~22
第8	メシアがオリーブ山の上に栄光の王として立つ。 大地震が起きて、地形が大きく変わる。	ゼカ 14 : 3~5、ヨエ 3 : 14~17、黙 16 : 17~21